



防災協力体制が充実！「安全・安心」高まる

多久市防災協力連絡協議会が発足

台風や集中豪雨などの災害発生時に、迅速な防災や復旧作業を行うため、市と防災協力協定を結んだ『多久市防災協力連絡協議会』が7月23日、中央公民館で発足式を行いました。

協議会は、多久市商工会建設部会に所属し、建築や土木関係の事業を営む市内の20事業者で組織。式には、その事業所の代表や関係者ら30人が出席し、活動内容などが確認され、意思疎通が図られました。

会長を務める多久建設(株)の秋永一正代表取締役は、「お世話になっている市へ恩返しのできる気持ちでひとつになって発足しました。行政と連携して我々の得意分野を発揮し、さらにネットワークを広げたい」とあいさつ。これまでの力添えにも感謝した横尾市長は、「防災力に意識が高く、業務に精通したみなさんが優れた技術力、人材力を寄与していただけることはありがたい、心強いものです。市としてもこの連携がさらに高まるよう工夫しながら、臨んでいきたい」と期待を込めました。

7月25、26日に見舞われた集中豪雨では、市内の主要道路や河川をパトロールし、的確な情報提供と迅速な機動力を発揮されています。

西多久町民の夢叶い『西多久音頭』のCD完成

歌い手は鳥井康代さんと川浪正則さん

西多久町を考える会は、新しくアレンジした『西多久音頭』のCDを製作しました。

西多久音頭は、昭和41年3月に閉校した西部中学校の教諭だった林信子さんが作詞・作曲されたもので、在校生をはじめ地域で歌われていました。ふるさとの人や自然のよさがあふれる歌詞に今回、市丸悦子さんが編曲。5月に募集して歌い手に決まった町内の鳥井康代さんと川浪正則さんが、ザ・ダイナマイツと西多久浮立保存振興会の演奏者とともに練習を重ね、8月2日に収録を終えました。

西部小の子供たちもおはやしに加わり、西多久の風景や特産物がジャケットを飾った町民の長年の夢が叶った手づくりのCDです。

今後、西多久町を考える会や婦人会で振り付けした踊りを取り入れ、七郎神社祇園祭や西部小・町民合同体育大会、ふれあいまつりで発表される予定です。



▲「みなさん、ぜひ聴いてください」と呼び掛ける鳥井さん(左)と川浪さん

カヌーで水面を 気持ちよくスイスイ

8/1

東多久町の羽佐間河川で親子カヌー教室が行われ、小学生の親子3組を含め30人が参加しました。これは、スポーツピアが毎年行っている夏休みのイベントです。去年も参加していた子どもたちは慣れたオールさばきで水の上を一人でスイスイ。また、小さな子どもはお父さんやお母さんと一緒に大満足。みんな笑顔で、夏休みの楽しい思い出となっていました。



柴田健二さんまたも快挙 水泳競技で優勝

7/20

ジャパンパラリンピック大阪大会で柴田健二さん(東多久町)が自由形100mで1分17秒、400mで6分11秒の記録を残し、優勝されました。日頃の努力と、練習熱心さで毎年のように入賞されている柴田さんは「11月に行われる障害者日本選手権や、一般の人と一緒に出場する県民大会でも好タイムを出したい」と意欲的。今後の活躍も楽しみです。

